

工芸科鑄金部子科

同 鈴木治平 千葉
 同 須賀通泰 神奈川
 同 山下悦夫 京都
 同 高田一郎 熊本
 同 音丸淳 東京

工芸科鍍金部子科

同 鈴木栄子 東京
 同 鈴木友也 山形
 同 平松保城 大阪
 同 木村賢太郎 東京
 同 高橋菊光 秋田
 同 小川仁一 東京
 同 長谷川栄 東京
 同 長谷川栄 東京

工芸科彫金部子科

同 柳生一夫 茨城
 同 内田丈太郎 埼玉
 同 加藤欣一 東京
 同 加藤達美 愛知
 同 細島晃 栃木
 同 関屋幸三 東京
 同 杉淵宏 北海道
 同 鈴木良雄 東京

図案科特別学生

同年六月一日入学
 ペリック・パネ
 ネインド

工芸科漆工部子科

同 張間道彦 石川
 同 奥村一雄 富山
 同 中野政樹 東京
 同 野村哲夫 東京
 同 山本昭二 滋賀
 同 山本潤樹 青森
 同 山本昭二 滋賀
 同 北島義行 香川
 同 松田昭良 山形
 同 藤田鑛太郎 静岡
 同 秋山泰計 香川

建築科子科

同 井出尚 東京
 同 鳥羽良也 長野
 同 岡村正 東京

彫刻科 木彫部	科 塑造部	油画科		日本画科		区別
		本科	特別学生	本科	特別学生	
本科	本科	本科	特別学生	本科	特別学生	予科
一〇	一四	三七		一六		第一年
一二	一六	四九	五	二九		第二年
一三	六	五三		二五		第三年
一五	六	三二		二二		第四年
一〇	二	一八		一一		第五年
	一					研究科
六	九	二〇		一一		合計
六六	五四	二〇九	五	一〇五	一	

⑮ 各科生徒級別現員表

昭和二十二年四月一日

同 飯沼道子 宮城
 同 板谷房吉 福岡
 同 長谷川隆 茨城
 同 二宮睦子 東京
 同 戸田吉三郎 山形

師範科
 同 宇野坦 兵庫
 同 杉原真守 千葉
 同 宮崎昭吾 千葉
 同 三橋博周 千葉
 同 岸本篤 岡山
 同 吉田桂二 岐阜
 同 奥村昭雄 東京

同 岡進一 佐賀
 同 附田陽子 青森
 同 梅田子 東京
 同 山梨常次郎 神奈川
 同 後藤恒 山形
 同 榎本文弥 茨城
 同 遠藤敏子 東京
 同 佐藤亮 埼玉
 同 白水滋 福岡
 同 白松之進 埼玉
 同 妹尾松之進 埼玉
 同 須貝一男 山形
 同 鈴木昇 千葉

総計	研究生	選科	特別学生 小計	本科小計	師範科		建築科	工			科								
					特別学生	本科		漆工部	鍍金部	鍛金部	彫金部	圖案部							
一五三二二二一八五一七九			一	一五二二〇四一八五二七八	一	一八	一〇	一〇	六	五	七	一九	二二	一五	二四	七〇	一	五六	五六
		三	五			二二	二二	一六	七	二	六	二二	二二	二二	二二	二二	三	三	三
						二四	一七	一〇	一〇	二	六	三	三	三	三	三	三	三	三
			一			二五	二六	九	一〇	二	二	三	三	三	三	三	三	三	三
						七〇	二	四	五	六	三	三	三	三	三	三	三	三	三
						一													
	五六					七九〇	九〇	八〇	五二	四二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
	五六					七九〇	九〇	八〇	五二	四二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
			三			七	一												

⑩ 卒業

昭和二十二年九月三十日、左記の生徒が卒業した。

日本画科
中川 一郎
新井 宏侍
油画科
中神 潔
日和田 利正
森 田 信夫
工芸科圖案部
石川 進
吉田 左源二
工芸科鍍金部
岸 武

⑪ 研究科廃止

昭和二十二年九月三十日、研究科が廃止（二月十八日）されたため、在籍者五十六名（油画二十名、塑造九名、木彫六名、圖案五名、彫金六名、鍛金四名、鍍金三名、漆工二名、日本画一名）が修了とされた。

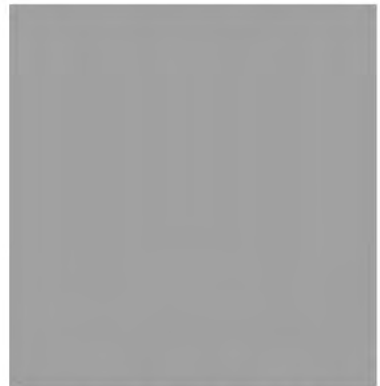
⑫ 学校の現状

昭和二十三年春、文部省行政監察委員会は「国民全体の奉仕者たる官吏の積極的活動を促し、真に国民の要望する民主的能率的新官吏道を確立する」ために文部省直轄部局等の行政監察を実施することになり、本校もその通達を受けて報告書を提出した。その控えに昭和二十二年現在の概況が記されているのでここに転載する。

昭和二十三年二月十日

学校長

文部省行政監察委員会あて
部局の自主的監察報告
首題に就ては文監三九号を以て報告方御通達に依り別紙の通り報告致します
一、監察組織



油画科教室にて（仁田三夫氏撮影）